

性感染症4疾患患者全数把握調査結果まとめ（2007年4月～2010年1月）

1. 2007年度は107機関から3467名、2008年度は87機関から2830名、2009年度（2010年1月までの10カ月間の計）は79機関から2150名、合計8447名の患者発生報告があった。2007年度、2008年度、2009年度と年を追うごとに、報告機関数、患者数が減少した。月ごとの患者報告数は各年度とも、5～10月に比較的多数の報告があった。（表1）
2. 報告のあった疾患で最も多かったのは女性の性器クラミジア感染症（3357名）であり、男性の性器クラミジア感染症（1266名）、女性の性器ヘルペス感染症（1174名）、男性の淋菌感染症（1054名）の順であった。混合感染で最も多かったのはクラミジアと淋菌の混合感染（男206名、女99名）であった。年齢階級別報告数は男女とも20代が多かったが、男性の性器ヘルペス感染症、尖圭コンジローマの多発年齢層は30代にシフトする傾向がみられた。女性のクラミジア・淋菌混合感染症は20代も多かったが、10代後半で最多となり、低年齢化が顕著に現れた。（表2）
3. 主な診療科別患者報告数は、産婦人科（4461名）が最も多く、泌尿器科（2224名）が続いた。男性の性器クラミジア感染症の16.0%が産婦人科からの報告であり、パートナー検診に取り組む医師の存在が示唆された。（表3）
4. 国籍別患者報告数は、男性の1.6%、女性の3.7%が外国籍であった。他の疾患に比較し、尖圭コンジローマの外国籍患者の割合（男性3.5%、女性5.7%）が高かった。（表4）
5. 医療機関が立地する地域外からの受診行動を保健所別にみると、全体では6.4%が管外からの受診であり、比較的多かったのは桑名管内の女性（9.2%）、津管内の男性（10.4%）、伊賀管内の男性（11.3%）、熊野管内の女性（55.6%）であった。（表5）
6. 医療機関が立地する地域外からの受診行動を疾患別にみると、比較的多かったのは男性の性器クラミジア感染症（8.4%）、男性の淋菌感染症（7.6%）、クラミジア・淋菌混合感染症（男8.3%、女10.1%）であった。（表6）
7. 医療機関が立地する地域外からの受診行動を主な診療科別にみると、比較的多かったのは女性の泌尿器科（7.7%）、男性の総合病院（10.4%）であった。（表7）
8. 3年間を通して年間8回以上かつ30人以上の患者発生報告があった医療機関は115機関中25機関（21.7%）と少数であったが、その機関からの患者報告数は5281名（62.5%）であった。（表8）
9. 3年間を通して年間8回以上かつ30人以上の患者発生報告があった25の医療機関においても、総数は2007年度1987名、2008年度1819名、2009年度（2010年1月まで）1475名と減少傾向を示した。月ごとの患者報告数は全報告機関の場合と同様、各年度とも5～10月に比較的多数の報告があった（表9）。年齢階級別集計でも同様の傾向であった（表10）。
10. 各疾患別、性別に年度ごとの発生動向をみると、男性の性器クラミジア感染症は2007年度、2008年度、2009年度と年を追うごとに減少したが、女性の性器クラミジア感染症は2008年度に増加した後2009年度は減少、男性の淋菌感染症は2008年度に大きく減少した後2009年度に再び増加を示すなど、疾患により異なった動向を示した。これらの結果から、3年間という短期間での増減傾向の把握は困難であった。（表11）
11. 三重県における感染症発生動向調査による15定点医療機関からの患者報告数をみると、15機関のうち5機関が皮膚科を主な診療科とする医療機関であるが、その全ての機関からの患者報告数が年間10人未満に止まっていた。（表12）

三重県における今後のSTDサーベイランスについて

平成22年3月12日

三重県保健環境研究所

1. サーベイランスの主旨

- ・ 予防・まん延防止対策への活用
- ・ 行政施策展開へのエビデンス
- ・ 地域における発生動向（特に若年層）の把握

2. 追加希望報告項目（現行のSTD定点届出様式及び全数把握調査報告様式参照）

- ・ 報告機関の主な診療科目（泌尿器科、産婦人科 等：初回のみ）
- ・ 無症状感染者も含め、ケース毎の報告（疾患名、症状の有無、性別、年齢、国籍、市町レベルの居住地、パートナー検診 等）
- ・ 月ごとの当該機関の受診者総数（これが判れば、患者数増減の経年傾向に加えて、レセプトデータ等を活用し、患者総数の推計も可能になると考えられる。）

3. 定点指定見直しの基本的考え方

- ・ 産婦人科、泌尿器科、総合病院を指定（皮膚科指定の必要性は低い）
- ・ 総合病院については、主な診療科を指定
- ・ 指定に際し事前アンケート等で、恒常的な報告が期待でき、サーベイランス（予防・まん延防止対策）に積極的な関わりを持っていただける医療機関を選定して指定することが望ましい。
- ・ eメールによる情報の受発信が可能な機関に定点を依頼することが望ましい。